

Mランドニュース Vol.166

丹波ささ山校 令和3年2月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

墨汁の一滴すらも見のがさず
元なる瓶にもどされしこと

寺田 一清氏著

師教を仰ぐ

— 森先生に導かれて — より

Mランドウオッチング

「絶対、コロナを持ちこまない！」という強い思いで、昨年営業自粛明けより、入館のゲストすべての検温と、手のアルコール消毒。



サーマルカメラで検温中



乗車前後の消毒も忘れずに

技能教習前と後の「アームハグ」(握手)は、今では感染防止のためやむなく中止。

換気している学科教室には、空気清浄機と加湿器を備え、職員はお互いに不要の外出も控えようと申し合わせ。インストラクターには、毎時間、手洗いとうがい啓発し、思いつく予防策を続けています。中でもゲストが運転練習で触れた装置を消毒するた

めに、インターバル毎に約二分間を要していました。

そこでパートナーショップである(株)クインオート様のご提案で、更なる対策として、すでに公共バスや鉄道車両、学校などにも用いられている抗菌処理を、全教習車に施していただき、インストラクターの消毒作業の負担が軽減されました。



車内、トランクの隅々までコーティング

しかし、油断禁物。ともしれば一人の行動が、ゲストや職員の生活を脅かすことになるため、常に自らを律しなければなりません。

私たちは、コロナ集団感染が発生することによる社会的影響や、昨年二月に多くのインストラクターがインフルエンザに感染したことにより、お客様に多大なご迷惑をおかけした教訓を踏まえ、今、でき得る対策を今後も続けてまいります。

もう一つのわが家

丹波ささ山校のホームは、「ハーモニー」「コンスタンツェ」「レゾナンス」の三棟があり、最大利用人数は百名ですが、現在「密」に配慮して、各部屋の受け入れ人数にゆとりを持たせ、約六十名を限度にご利用いただいております。不安と期待の入り混じる

中、お越しになる滞在生は約二週間、技能教習と二回の技能検定、学科教習と三回におよぶ学科テストをクリアしなければなりません。そこで私たちはホーム生

にとって寝起きする宿舎でなく、ゲスト同士切磋琢磨し相乗効果を高める場、「ホーム」と位置付けています。二〇〇七年には、旧校舎を改築し、丹波ささ山校初めてのホーム「ハーモニー」として生まれ変わりました。ギリシヤ神話に由来する言葉で、「調和」を意味します。



ハーモニーの外観

二〇〇九年二月には、「社の中の教習所」にふさわしいホームとして、丹波篠山の木材と土を利用して建てられた、女性専用ホーム「コンスタンツェ」が誕生しました。

「コンスタンツェ」とは、偉大な音楽家モーツァルトの妻の名前で、オーソトリア・ザルツブルクをイメージして造られました。



1階フロアー 木調が落ち着きます

このお風呂は岩風呂で、窓の外には小さな庭もあり、湯気の中からゲストの鼻歌も聞こえそうです。



一日の疲れも癒されますね

二〇一四年十一月には、

女性専用「レゾナンス」が完成。意味は「共鳴」。ゲスト同士、また、私たちスタッフと共鳴し、共に成長していくことを願いました。

「レゾナンス」は学校などのクラブチームやサークル向けで、各部屋がパーティション(間仕切り)で仕切られ、部屋によっては収容人数を、最大十七名まで可能としていますが、現在は大部屋として使用していません。



にぎやかな声に戻る日を願って

約二週間、教習に一喜一憂し励まし合ったホーム。ご一緒に入所された友だち

ちはもちろん、ここで出会った友だちと過ごした楽しい時間が終わり、「帰りたくない」と涙ぐむゲストがおられるのもMランドの風景です。そんなホームで過ごした思い出を、いつまでも免許証の片隅に刻んでいただければと、私たちは願っております。

「気」

満延するコロナ感染。今、国民一人ひとりの行動が問われます。

これに伴って、さまざまな対策が打ち出され、いろいろな商品やアイデアも生み出されていますが、日々掃除をしている中で、鍵山秀三郎氏著の「凛とした日本人の生き方」の文中、次の一節を心にとめておられますのでご紹介いたします。

ある小学校で掃除実習を終えた後、参加した児童の一人がこう言いました。「なんだかトイレが広くなったなあ」

掃除をしただけで、スペースを拡張したわけでも照明を増やしたわけでもないのに、トイレが明るく、広くなったように感じられる。これは徹底した掃除によって、そこに充滿していた「悪い気」が除かれ、「よい気」が発散されたからです。

「元気」「根気」などの言葉に含まれる「気」は、生命の原動力であり、活力の源泉として、人間の行動や生活に大きな影響を与えます。

汚いものは悪い気を発散して、悪者を招き寄せます。

きれいに掃き清められた伊勢神宮や明治神宮に悪者がたむろしているということを聞いたことはありません。悪いことは、いつも汚いところからはびこるのです。(以下続く)

古来より、日本人が受け継いできた大切な「掃除」の習慣は、現代に生きる我々の在り方と決して無縁ではないと思います。

そんな心も発信できる自動車教習所でありたいと願っています。

五年に思う

営業チーム 林美枝



短大を卒業前にした私は、なりたいたい職が見つからず、「何かしなければ」の気持ちで、地元のガソリンスタンドのアルバイト店員をすることとしました。

「セルフ」などない時代で、一台一台のお客さまと接している中、最初は気にも留めなかつた、店の前を頻繁に走る教習車に興味が増え、平成六年自ら通った当社の門をたたきました。

当時はまだまだ年功序列の男性社会。今ほど職員間のコミュニケーションは容易ではありませんでした。

入社一年後、教習指導員となった私は、教養で学んだ指導方法を、教習生に伝えるだけの時間が流れていました。そんな私の転職となったのが平成十七年、Mランド丹波ささ山校となり、一泊二日徹夜におよんだ島根県益田校での研修でした。

普段は優しく接して下さる故小河二郎前会長の、真剣で気魄のこもった研修は、私の「教習所」としての概念を大きく変えていただきました。

以来、「生きる勇氣と希望」を与えられる教習所として、自信をもって営業活動や教習にゲストに向き合っています。

今年、生まれ年を迎え、気持ち新たに取組んでいます。

ようこそ！

毎月一度、トライアスロンチームブレイブ 八尾彰一監督と、ご縁ある方々がお越しになり、Mランドで「トイレ掃除に学ぶ会」をされた後、楽しいひとときを過ごされています。

一月十一日(月)朝、そんな男子トイレにお手伝いに行きますと、「おおく！」と驚き。なんと清水真有様の背中に、「赤ちゃんが！」

幾多の掃除の会に参加させていただきましたが、このような場面は初めてでした。お子様の名前は陽喜くん、生後八か月。

お母さんの背中中、「ゆらゆら」、おとなしく掃除のようすを見ている姿のあまりのしぜんさに、しばらく八尾監督と微笑んで拝見していました。



「何をしているの」、とばかりの陽喜くん

掃除を終えられた清水様は、「背中中何を思っていたのか、うー、うー。あー、あー」と、私に話かけているようでした」と、おっしゃってくださいました。

掃除するお母さんの背中中、スポンジやたわしの音から、陽喜くんは何を感じて、何をお母さんにお話していたのでしょうか。

その後、いい子にしていたご褒美にお母さんの「おっはい」を、お腹いっぱいごちそうになられたようです。

「陽喜くん、また来てね！」
※掃除後の手指消毒処置済

編集後記

マスクをしても笑顔は伝わりません。そしてマスクをしているからこそ、元気なあいさつは心がけたいものです。

毎朝、Mランドのどこかでゲストの皆さんが、「朝のボランティア活動」で心磨きをされています。

徹底した掃除は、気持ちや心の整理ができ、勉強の効率も上がり、体を動かさせたことにより、食事の消化や栄養の吸収も、よくなるのではないかと、掃除を終えたゲスト

トを見ているといつも感じます。

一月のある朝、細かい所まで気配りし、丁寧な掃除をされている岩森未紗様をお見かけしました。



お掃除の途中失礼して、「パチリ！」

前向きに教習に取り組む仮免を無事に合格され、第二段階も明るく元気に取り組まれることでしょう。

こうして今、自分が何をすべきか、毎日ゲストたちは目的意識をもち、教習力リキラムと向き合っておられます。(徹)



かならずやって来る「春」のために ※写真:丹波篠山市HPより